

本日、衆議院国土交通委員会で齊藤洋明衆議院議員（自民・比例北陸信越）が質問に立ち、JR東労組がスト権を確立したとの産経新聞の報道に関連し、JR総連及び加盟単組への極左暴力集団・革マル派の浸透問題について、政府の見解を質すとともに安全・安定輸送の面から警鐘を鳴らした。

警察庁が引き続きJR総連・JR東労組への革マル派浸透を認識

衆院国土交通委員会で自民党議員からの質問に答弁

警察庁長官官房審議官「見解に変わりはない」と答弁！

齊藤議員は、4月18日付の産経新聞朝刊でJR東労組がスト権を確立したとの報道に関し、過去の政府公式文書や国会答弁でJR総連やJR東労組に革マル派が相当程度浸透しているとの指摘を踏まえ、「革マル派が相当程度JR東労組に浸透しているという過去の回答および政府の報告の認識は現状でも正しいか」と質した。

これに対し、白川靖浩警察庁長官官房審議官（警備局担当）は「平成8年以降、革マル派の非公然アジト28箇所を摘発し、これらのアジトの一部から押収した資料を分析するなどした結果、お尋ねの労働組合に革マル派活動家が影響力を行使する立場に相当浸透していると認識しており、その見解に変わりはない」と述べ、引き続きJR総連・JR東労組へ革マル派が相当浸透していると認めている。

「適切に対処していく」と国土交通大臣政務官が表明！

さらに齊藤議員は、わが国最大の鉄道会社であるJR東日本の労働組合が極左暴力集団の強い影響下にあることを問題視、交通政策や国内の治安維持・確保の観点から好ましい状態ではないと指摘して、関係省庁の見解を求めた。

そして、所管する国土交通省の根本幸典国土交通大臣政務官は、労使関係をいかに構築していくかはJR東日本の経営上の問題としながらも「仮に鉄道の安全・安定輸送に関わる問題が生じてくることがあれば、安全・安定輸送を十分に確保することが必要であるとの観点から、適切に対処していくことになる」と答え、鉄道の安全・安定輸送の確保に、今後も適切に対処していく考えを表明した。

**極左暴力集団の強い影響は安全・安定輸送からも問題！
安心して利用できる鉄道のためにも民主化実現を！**